

いわざ民報

社報民きわい
行發 平市田町一番地 電話三八一
社報民きわい
所 平市田町電八八四
平新聞共販第一配給所
平新聞共販第二配給所
平新聞共販第三配給所
平新聞共販第四配給所
平新聞共販第五配給所
平新聞共販第六配給所
平新聞共販第七配給所
平新聞共販第八配給所
平新聞共販第九配給所
平新聞共販第十配給所
平新聞共販第十一配給所
平新聞共販第十二配給所
平新聞共販第十三配給所
平新聞共販第十四配給所
平新聞共販第十五配給所
平新聞共販第十六配給所
平新聞共販第十七配給所
平新聞共販第十八配給所
平新聞共販第十九配給所
平新聞共販第二十配給所

社説

共産黨の偏狹

天皇陛下の御災地御巡幸は國民に何を與へたであらうか、罹災民は感激にむせび、産業従事員は「困苦に打ち克ち生産増強」を固く誓ひ、新宿驛附近の路傍では期せずして萬歳の突風が巻き起つた。

朦朧候補相當退陣か

總選舉愈々目睫に迫る

立候補資格申請者が以上の多數に上つた爲、政府は審査に豫想以上の日数を費し、選挙期日が三度延期され、来る十一月十日總選挙を執行することに決定した、申請書を提出した九十余名中には資格を握らぬ限り、内心不安にかられた者も相當あつたらうが、マ司令の該當者は唐橋重政、神尾茂兩代議士の外、翼壯關係の關誠一、河原田新平の兩氏止つた爲何れもホツト安堵した、然し、資格證は授けられても、僥れを知るものは立候補を断念するであらうし、實際の数は相當減するものと見られてゐる。

選挙民を迷はす

中立議員排撃主義主張を明かにせよ

今次の總選挙は候補者がベラ捧易に起意を抱かしたものであつた、無所属とか地方政から、選挙法の改正に當つて供託金の多寡が特異性である、託金を少くも二萬圓程度に引上げ、候補者立は現今の諸物價に比しなかつたのは失敗である、液一、二萬圓の供託金が僅かに收められるが二萬圓を超へると失し、萬一法定数の投票を得た成つては國政に參與する自信と供託金を没収されても何等の自己の信用が果して二萬圓に値痛痒も感ぜず、豫貯金が全面的に封鎖され、國民全体が五百圓拾つかぬ立は免れた筈である、更に無所属とか地方政黨に屬する者の多いことは、既成政黨が全面的に解消され、一應所屬が誤破算された結果、新たに組織された政黨の性格がハッキリ把握されぬことにも原因するものと思ふ、然し無所屬とか地方政黨などの議員は如何なる意圖のもとに議政壇上に立たんとするか、一般選挙民も迷はざるを得まい、無所屬候補者に対して民衆が如何なる批判を加へてゐるか、放るるといふべきである、選挙民の意志を表示出來ぬ無所屬候補者に対しては、嚴正な批判を加へるべきである、

新圓戰術に悩む

五圓札集めた失敗者は誰

新聞の切換は今次の選挙陣営に堂々鳩山一郎總裁を迎へて舉行大きな響を與へてゐる、選挙費として約二萬五千圓の新圓を後全氏を議長に、宣言決議を採擇、次いで左の如く役員を任命した、

失格者一名も無し

平・石城で十四名出馬

立候補資格審査は一應終了し、確認證が交付されることになつた、本縣での失格者は河原田新平氏一名のみで、平市及び石城郡下の申請者への失格は一名もなく、左記十四氏全部と適任者として、十一日の告示と同時に華々しく戦の幕を切つて落すことになり、未曾有の激戦が展開されることとなつた。

富士興業勞組結成

期限付六項目の要求書提出

平市の富士興業株式會社警備工場従業員は、この程勞組を結成組合長に武石不二夫氏を、副組合長に若林誠忠氏を推し數回に亘り協議會を開いて慎重に研究果して各候補者陣営の参謀連が新圓切換へに對處してどんな新戰術を編み出すか、確かに來るべき選挙の一興味として眺め得られやう。

自由黨支部 結成大會

支部長加藤宗平氏 自由黨支部の結成大會は三日午後二時から福島市第一國民講堂

支部長加藤宗平氏、自由黨支部の結成大會は三日午後二時から福島市第一國民講堂、

日立勞組の 闘争解決

會社の誠意を認め 増産に挺身を誓ふ

日立製作所小名瀆工場勞組では賃金値上げ外七項目の要求書を提出、外部からの政治的援助を避けて勤勞しながら要求の貫徹に向ひ邁進中だつたが、従業員側の健康な態度に會社側も好感を持ち、去月二十一日付で要求の九パーセントを承認した、會社側はこの誠意ある回答に従業員側も會社の現状等と脱み合せて、これを諒とし、即日闘争を打切つて今後一層一致協力増産に挺身、再建日本の産業振興に全幅の努力を傾けることを申し合せて

言寸きわい

皇陛下の御災地御巡幸を「選挙運動」として抗議する打倒天皇制運動に燃きまわつたか、今度は何を考へ出すか吾等は監視する必要がある。

選挙民を迷はす、中立議員排撃主義主張を明かにせよ、自由黨支部の結成大會、富士興業勞組結成、失格者一名も無し、新圓戰術に悩む、朦朧候補相當退陣か、共産黨の偏狹、市の臨時賞與、日立勞組の闘争解決、言寸きわい、

舊藩主邸を圖書館に

少壯事業家として最近頃勃興して來た平市田町猪野四郎氏は「郷土に生を受けた以上郷土に盡すべきだ」と舊藩主邸跡の一角を保護策を計し、同所の土地と朽ち果てた舊城主安藤家の元の家屋を買収、落成後の舊藩邸であり、其の後磐城縣廳舎跡の一角をそのまゝ存置すべく非常な苦心と大い犠牲を拂つて原形修復を行つてゐたが、二ヶ年の日数を費し最近完成の域に達した爲、これを市民のため最も有意義に開放すべく、縣議關内正一氏に一任してゐたが、文化施設として早くから要望されてゐる圖書館に開放することに内定、この計畫には三萬冊の書籍も寄附することの約束成り、平市唯一の史跡を保存し且つ子弟の教養に利用されるなど一石二鳥の効果を擧げることになつた、圖書館建設については關内、猪野兩氏を始め文化協會關係、市役所、學校長、其の他有志を以て委員會を作り、書庫の建設、將來の運営、維持方法など具体的に協議の上促進せしむることになつてゐる、一部には圖書館を中心とした文化運動の源泉たらしむべく豊富をもつてゐるものもあり、實現に大い期待をかけられてゐる。

三猿文庫三萬冊の寄附中心に 史蹟保存と文化運動を兼ねて

江名まで臨港鐵道延長

町の誠意に 急速實現を期す
會社も感激

小名濱臨港鐵道ではかねて江名收金の外に見舞金として贈る國の立場を忘却してゐる結果と町まで七キロ路線の延長計畫中に決定、即時總額十一萬圓みて、平働労働では憂慮、祖國透しつたので、いよいよ測も町のこの熱意に感激、萬難を度ではならぬ、見返り品量設計を開始することになつた排して運も年内に完成の豫定の最上級にある紡績工業等へはこれに對し地元江名町では全面で進むことになつた、磐城七瀨進んで就職すべきであると、改的に協力、早急に實現せしめるの王座を占めながら交通機關に於て連絡校と協力、兒童に呼びこゝなり、去る二十六日町及惠まれず昨今は小名濱に押されかけると共に家庭の理解を求めび町會の協議會を開催した結果氣味の江名にとつては、この上ることになつた、たゞ今度の所會社側の土地買収を樂に急進しない喜びであるばかりか「水産持金凍結により、安くとも定業終らじめるため町として土地買収」にとつても一大威力を加へたもので今後は相當好轉しはせぬかとの希望を抱いてゐる。

許されぬ白い手

日本の立場を正視せよ

平和日本の再建には、白職希望をしてゐる向を眺めると平働労働管内の連絡國民學校數名として許されぬ、この染めることは嫌つて、手を黒くは五十七校、この卒業兒童數男なつたの校門を果立つとも望まれる紡績女工さんの志願就職希望は僅か二割四分の男と、別項の如く極めてもれば食生活の逼迫にもよると計九百三十三名、前年あたり迄の倍しに限りである、その上就へ、終戦による安逸感に、敗戦に較べ著しく減じてゐるのは、

開

救済者へ

救済者へ
純上名歴可
望むと望まざるに抱はらす？一途に戰場の塵に立たされて居た多くの人は、今敗戦日本の名の下に續々と故國に送還されてゐるが、之等復員者並に引揚者に對して内地の人達はさう扱つてゐるか、余りにも冷たく無情すぎは

電球の配給

見込みなし

電球の配給
見込みなし
東北配電の辯
上取扱ひ等に注意して全面的に電球の配給に御協力を願ひたい
向電球交換は一日多日は二十五、六件、平均十五、六件に達してゐるとある

童心を架に供米を督勵

童心を架に供米を督勵
全組合
員に回
教員連も手分けて、各農家を訪問、街の子供達のお辨當の話を語り、側面から供米完遂を懇請する新戦術をとること、去月中先づ第一校職員が市吏員と共に出勤したが、今後更に第二、第三、第四校の順序で完遂をみるまで繼續することになつた、いかめしいお役人の督勵と異り相當効果あるものと大きな期待をかけられてゐる

求人殺到

求人殺到
一方求人側をみると管内では男が四百十九名、女二百八十八名、このうち就職した者は男が二百五十二名、女二百五十九名に達してゐる、職種は男では旋盤、仕上工、女は殆んど全部が紡績に集中してゐる、この押すな、求人も拘らず既に就職の定数が三割の二百五十五名、女が二割八分の七十五名のみとある

少年町の役場

少年町の役場
全國最初の計畫
各洲にこれが設置をみて居り、一定の區域を確然と分ち、そこに凡ゆる工場も建設されてゐる、收容中の少年達はそこで教育される一面、性能に従つて各工場に勤く、そして經營はこれら工場製品で賄つてゆく、からみてこの構みの解決は難し

軽工業界 活性化

軽工業界 活性化
アンブル工場
更に新設さる
戦争疎開などもあつて一兩年以來平地方の輕工業は大きい發展を見せてゐるが、殊に硝子關係製品工場は、



▲小名濱町會議員選
▲小名濱町會議員選
▲小名濱町會議員選

活潑化
アンブル工場
更に新設さる
戦争疎開などもあつて一兩年以來平地方の輕工業は大きい發展を見せてゐるが、殊に硝子關係製品工場は、

ラジオの修理奉仕
所では来る十日から三日間、聴取者のためにラジオの無料修理奉仕を行ふ希望者は遠慮なく市内町の富永ラジオ商會へ持参され度いとある

平局員の藝能大會
平郵便局では来る十六日電話交換局内で慰安を兼ねて局員全員の藝能大會を開催する

悩む住宅難
赤井地方の疎開者
警備東線の赤井、赤井兩村地方には相當数の戦災者や疎開者が入つてゐるが、戦時中の温ひ同胞愛も、いつか冷やれ今「息子かどの口實をつけ輸出しをするものが多く、疎開者も戦災者も悩みに悩んでゐるが、赤井村當局も憂慮、目下農家に戦時中にもました同胞愛に訴へるべく具體策を考究中とある

磐城貨物の勞組結成式
磐城貨物自動車會社
勞務組は、勞務の歩み寄りと三浦平郵便局勞組結成委員長の應援により誕生、二日午後一時から平市公會堂日本間で結成式を舉げた、所屬組合員三百名、組合長には小野昇氏、副組合長には本田昌勝、片桐重治兩氏が推された、向支部は平市を三支部に、勿來を二支部に分け、その他四倉、小川、綴、植田、黒田、上遠野、小名濱、江名、豊間にも設置した

活潑化
アンブル工場
更に新設さる
戦争疎開などもあつて一兩年以來平地方の輕工業は大きい發展を見せてゐるが、殊に硝子關係製品工場は、

短歌

青玉抄

櫻町京二

この心泣まほしけれ月かけに
人問ひとり掌合せたり
毒蘆は悪鬼邪神の心なり君よ
泣け日暮るまで
青玉のまらきを一つうなにかせ
君よ眠ひらけれも開かむ
眞實の銀光一路ひかりたりまづ
眼をひらき然るのち閉つ
銀光はあまり鋭し晝日中めだま
一對つかれたるかも

合掌

遍路紅緒

歌よみて心明るく生くる日の
少くならぬ今日この頃は
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の
心足らぬと春近づくと獨居の

階級闘争の考察

千輝克巳

マルクスが共産黨宣言に於いて
「彼等(有産者)の没落及び無産
者の勝利は避けべからざるもの
者とは常に相反目して、或は
然の、或は公然の絶え間ない闘
争を續けてゐると見られ勝ちで
ある。必ずしも世間悉くがこの
事實を承認しないにしろ、さう
いふ見方をする者が激増しつゝ
あるのは争はれないことである
従來の歴史が階級闘争の歴史で
ばかりあるとは考へないが、階
級闘争の歴史が、歴史の重要部
分を占めてゐることだけは私は
充分認める。然しこの闘争史が
人類の歴史の重要部分を占めて
ゐるといふことは一部有識者と
稱する人々や、反マルクス學徒
が考へてゐるやうに恐ろしいこ
とも何でもないかと考へる。現在
の資本主義的組織が、階級闘争
に於ける無産者の勝利によつて
遂に社會主義的新組織に移りゆ
く運命とみるのがマルクスの經
濟史観だといふに信じてゐる
が、こゝに問題となるのは階級
闘争に於いて無産者は常に勝利
を獲得するかどうかの点である
共に倒れるか、どちらにしても

春の土

上田冷人

地方的性格のために
ほのぼのと一陽夢ならん
わが足もとにふりそそぐ光のか
がやまよ
まんまんと肉體のやうにふくれ
あがり、もりあがる土壌
せいせいと思ひつき
無限の重畳を泡立たせてゐる
にほひの佳い土
春の土
花でも木でも、つつみはくぐむ
烈しい土よ、のぞみに燃える土
である
かつての日
ひとり快い沈黙を抱き
静寂のなかで燃えてゐたであら
う熱情よ

文藝俱樂部發足

十日に結成式

日本青年文藝俱樂部の發起人會
第二國民學校に藝能大會を開催、
は、一日午後六時から榎小路
増産にいそむ村民を慰安、好
果、急速に結成、活潑な活動
を開始することになり、来る十日
(日曜)に午後一時から平石
城重慶看護婦學校の樓上で發
式を擧げることとした。尙ほ
發會と同時に例の「青年座」を
組織すると共に、遅くも四月か
ら短歌、詩、俳句、創作を中心
とした文藝機關雜誌をも發刊す
ることも申合せた。従來の文化
團體の如く會員の資格等を限定
せず、何人でも自由に参加を許
すばかりか、極めて自由なもの
であるので各方面から大きな期
待をかけられてゐる

讀書人組合

ルラベリ・キワイ
獲得が實現か
櫻町京二

川は聲なき
棒の木立はわけて立つ
あ、うらぶれの日の
いや果ての
心わりなし
今宵またあるかなきかの
とほしき燈を求めて
聲もなき祈りを捧ぐ
あ、
そして、わがががやく足もとが
らは、ふみ踏つた、光のかげが
花の色となつて上つてゆく。
いのり
かつみ
おお、みわたす性のみのりのか
がやまよ、遠く渡つた地平よ、
あらゆる新しいものと
すべての佳いものがよみがへり
いまここに立つてゐることは
まるで夢のようだ
快よく新しい力をつかんだかん
じ
あ、
そして、わがががやく足もとが
らは、ふみ踏つた、光のかげが
花の色となつて上つてゆく。
いのり
かつみ

春、三月の裝飾へ
泉川 武士
夏井川のバラスを
寶石を拾ふやうに
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ
春、三月の裝飾へ

天皇の認識講演會
惟神聯盟理事長
高橋伸典先生
期日 三月二十日午後一時
場所 平石公會堂日本間
主催 惟神聯盟
後援 福島民報平石支社
磐城報社

獲得が實現か
櫻町京二
インダの詩聖グーテの「生をなし朝に市から出て耕作に従
の實現」の最初の章に於いて、事し、夕には市に歸つて市民と
古代ギリヤ文明とインダ文明 歡樂を共にしたのである、これ
の差異について、ギリヤの文の都市は一朝事ある時を豫想
明が城壁の中に育てられたのにし嚴重なる城壁を環らしてゐた
對してインダの文明は森林の中のである、翁が古代ギリヤ文
に培はれた、そしてギリヤ文明が城壁にはぐまれたと云つた
明の繼承である西洋文明は、凡のは此の意味に外ならない
べて他から獲得しやうとするが、私は翁の比較論が、正しいか
インダ文明は常に自己を實現しようか、検討してみやうとする
やうとするとの意味を述べてゐるものではない、然し西洋文明權
成の基礎が獲得にあり、インダ
文明のそれが實現にあり、イン
向を持つてゐる、これはイン
が四千年の昔から神話から生れ
た宗教によつて化育されて來たものがなく、悉く他から持
つて來たものである、然かも神話たるやて來ること、移轉すること、そ
れは神祕を識し人智の測り知
ることの出来ない高山大嶽
の所有とするものが獲得であり
るのである、インダの文明が森
現である、西洋文明が獲得か、
もこれに外ならない
ギリヤの上古に於ては、ポ
リスと呼ばれる人口一乃至
七萬位の多くの都市が一里か二
の間の距離を置いて並列されて
た、その都市と都市の間に農夫
相當に面白い結果に到達し得る
の住む假小屋はあつたが、農民
の定住する今日の所謂村落、田
圃といふやうなものはないかつた
農民は常に都市に定住して、群

蓮沼龍輔
平市町 電七七八番
大井川幸隆
平市仲町 電一九三番
鈴木傳明
平市仲町 電六〇三番
長島菊苗
平市小太郎町 電九〇番
日本アンブル工業會社
東北工場
平市五丁目 六六番